

平成28年度

黒部市教育センター事業の点検評価

報告書



平成29年3月
黒部市教育センター

目 次

I	平成28年度黒部市教育センター事業点検評価実施方針	1
II	点検評価の結果	
1	児童生徒の学力向上、教員の指導力向上	
(1)	市教委・市教セによる学校訪問（通常訪問・支援型訪問を含む）	2
(2)	学級運営研修会（若年教員中心）	3
(3)	特別支援教育研修会	4
(4)	体育実技研修会（若手教員中心）	5
(5)	情報教育実技研修会（情報教育研究委員会）	6
(6)	全国学力・学習状況調査の結果分析とその活用	7
(7)	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果分析、 体力・運動能力向上研修会	8
2	黒部国際化教育の充実	
(1)	黒部国際化教育組織部会	9
(2)	企画・運営・評価部会	10
(3)	英会話科カリキュラム部会	11
(4)	英会話科担当者定例会	12
(5)	英会話科の推進に関わる研修会	13
(6)	英会話科の授業の充実及び環境整備	14
(7)	帰国児童生徒教育研究会	15
(8)	帰国児童生徒・外国人児童生徒教育	16
3	生徒指導・教育相談の充実	
(1)	いじめ問題等研修会	17
(2)	生徒指導主事等研修会	18
(3)	教育相談の充実と体制づくり	19
(4)	不登校児童生徒に関わる取組、適応指導教室の充実	20
(5)	スクールソーシャル・ワーカー（SSW）事業の活用推進	21
(6)	幼・保・こ・小・中学校の連携事業	22
4	学校教育を支援する調査・研究の推進	
(1)	社会科研究委員会	23
(2)	理科研究委員会	24
(3)	吉田科学館学習（プラネタリウム学習）	25
5	迅速な教育サービスの提供	
(1)	情報提供	26
(2)	視聴覚教材・書籍等の整備や貸し出し、掲示物等の印刷	27

I 平成28年度黒部市教育センター事業点検評価実施方針

1 趣旨

教育センター運営の改善・改革を目指し、事業の執行状況について点検及び評価（以下「点検評価」と言う）を実施する。

2 点検評価の対象

平成28年度の黒部市教育センター事業

3 点検評価の方法

- (1) 「平成28年度黒部市教育センターの要覧」に掲げる分野に基づき、個別事業ごとに点検評価シートを作成し、次の5段階による総合評価を行う。

評価	評価の規準等	達成度の目安
AA	目標を十分達成し、期待以上の成果が得られた。	100%以上
A	目標を概ね達成し、ほぼ期待どおりの成果が得られた。	80～100%
B	目標を半分以上達成し、ある程度の成果が得られた。	60～80%
C	目標をあまり達成できず、成果が少なかった。	30～60%
D	目標をほとんど達成できず、成果が少なかった。	0～30%

- (2) 黒部市教育センター運営委員会での検討

自己点検評価したものについて、黒部市教育センター運営委員9名において、客観的な視点で検討する。

【黒部市教育センター運営委員名簿】

	氏名	役職
運営委員長	岩井芳生	小学校長会会長（宇奈月小学校）
運営副委員長	尾村国昭	中学校長会会長（桜井中学校）
運営委員	鍋谷悟	学校教育課長（黒部市教育委員会）
運営委員	金山努	学校教育班長（黒部市教育委員会）
運営委員	霜野好真	子ども支援課長 保育所・幼稚園班長
運営委員	杉本勉	帰国児童生徒教育研究会会長 小学校教育研究会会長（中央小学校）
運営委員	中村靖	中学校教育研究会会長（鷹施中学校）
運営委員	寶田順一	生徒指導連絡協議会会長（宇奈月中学校）
運営委員	森内裕之	小中学校教頭会会長（たかせ小学校）

- (3) 報告及び公表

点検評価に関する報告書を作成し、これを各運営委員及び各学校に配付するとともに、ホームページの掲載等により公表する。

Ⅱ 点検評価の結果

1 児童生徒の学力向上、教職員の指導力向上

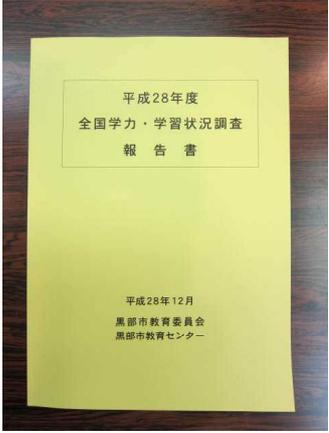
事業・研修会名	1－(1) 市教委・市教セによる学校訪問 (通常訪問・支援型訪問を含む)
内容・方策	<p>富山県教育委員会や黒部市教育委員会の指導方針に即し、学校運営や教育指導、研修に関して指導援助し、学校課題の解明や教育実践の効果を高めることを目的として学校訪問を行う。</p> <p>○1～2学期に市教委・市教セによる学校訪問を実施し、若年教員等の授業を中心に各教科等の授業を参観し、授業後には若年教員と懇談し、「確かな学力の育成」や「生徒指導の機能を生かした授業」等について指導・援助する。また、悩み事を聞く場としても活用する。</p> <p>○通常訪問や支援型訪問では、各教科等の授業参観をするとともに、部会協議会にも参加し、東部教育事務所の指導主事とともに指導助言にあたる。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・市教委・市教セによる学校訪問では、若年教員の授業のよかった点を挙げて励ますとともに改善点も指摘した。また、若年教員からは学級運営や部活動等に関する課題や悩みを聞き、それに対する指導・助言をすることもできた。若年教員にとって意義のある研修になったと考えている。 ・通常訪問や支援型訪問では、当初予定していた活動を行うことができた。部会協議会において指導助言にあたったり、後日、授業や各学校の研修について気付いたことをまとめ、各学校に届けたりした。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・市教委・市教セによる学校訪問は、昨年度の反省を踏まえ、1学期に通常訪問が予定されている学校には2学期に、2学期に通常訪問が予定されている学校には1学期に行った。日程的にも無理なく実施できた。 ・市教委・市教セによる学校訪問で学校課題について話し合いたいと考えている学校もある。若年教員への指導は実施しつつ、他の学校課題にも対応することも視野に入れることが大切である。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、平成29年度も継続する。

事業・研修会名	1 - (2) 学級運営研修会（若年教員中心）
内容・方策	<p>若年教員が講話を聴いたり演習に取り組んだりすることにより、学級運営の力量を向上させる。また、学級運営上の諸問題や日々の悩みを話し合ったりすることで、教員同士が横の連携を強め、互いに相談できる体制を構築できるよう支援する。</p> <p>① 学級運営研修会（初任者対象）【5/17、参加者8名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒部市内着任の初任教員同士が、悩み等を話し合っって横の連携を強めるとともに、社会人としての常識を身に付ける。 ・講師 黒部市教育センター 宮本 悟 所長 <p>② 学級運営研修会（若年教員中心）【8/1、参加者54名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニングに関する講話や演習を通して、望ましい学級集団をつくるための研修を深め、教員としての指導力の向上と実践意欲の向上を図る。 ・演題 「アクティブ・ラーニングって何？」 講師 上越教育大学教職大学院 教授 西川 純 先生
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>①の研修について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃の悩み等を話し合い、共有することで、同じ悩みをもつ仲間としての意識が高まった。また、市教セとしても学校訪問の際に、声をかけたり悩みや要望を聞いたりしやすくなった。さらに、服装や電話の応対等、社会人としての基本的な心構えを知る機会となっていた。 <p>②の研修について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニング（AL）についての講話を聴いたり、実際の様子を動画で確認したりすることで、具体的にどのようなことをしていけばよいのか理解することができた。 ・参加者からは、「ALについて、今後取り組むべきことが分かった」「ALは、学習面で有効だと思っていたが、学級運営でこそ意義のある活動だと発見できた」等の感想が寄せられ、不安に感じていたことが、少し解消されたようだった。
課題・改善	<p>①の研修について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着任1か月を過ぎた5月の開催はよかったが、学校行事等も多い時期なので、もう少し早めの時期を考慮した方がよい。 <p>②の研修について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若年教員以外にも希望を募ったところ、多くの教員が参加した。興味・関心の高いテーマだったのでよかったと思える。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、平成29年度も継続する。

事業・研修会名	1－(3) 特別支援教育研修会
内容・方策	<p>特別な支援が必要な児童生徒への教育を推進するため、専門機関等と連携を図りながら、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導を行えるよう、研修を行う。</p> <p>○ 特別支援教育に関する研修会【7/29、参加者20名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常級における、特別な支援を必要としている児童生徒への配慮や支援について、講話や演習を通して研修し、指導力向上を図る。 ・講師 富山県立にいかわ総合支援学校 教育相談主任 大村 和彦 先生
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・講話では、支援を要する子供のための具体的な支援方法として、視覚的手がかりの活用から板書の工夫やI C T機器の利用等が紹介された。また、教室環境の整備も重要な支援であることを学んだ。 ・演習では、インシデントプロセス法が紹介され、グループごとに実際の例を取り上げてケース会議を行った。4～5人のグループで原因や具体的な解決策を考えることで、今後の指導に生かすことができる研修となった。 ・参加者からは、「子供のマイナスの面ばかりに目が行きがちになるが、自己肯定感がもてるよう指導していきたいと思った」「インシデント法で、みんなが少しずつ知恵を出し合って、解決する方向に進んでいくような気がしてよかった」「問題については一人で抱え込まないようにしたい」等の感想が寄せられ、気持ちが前向きになった教員が多かったようである。 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする児童生徒が増加し、通常級における支援方法等に悩んでいる教員も多く、通常級に焦点を当てた今回のテーマはよかったと思われる。 ・通常級でも比較的重度の障害を抱えている児童生徒がおり、周りの児童生徒への影響が大きいという悩みも多い。適切な指導や支援を行うことができるよう、教師の専門性を高められる研修会を企画していく必要がある。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、平成29年度も継続する。

事業・研修会名	1 - (4) 体育実技研修会（若年教員中心）
内容・方策	<p>授業を実施する上での基礎・基本等についての理解を深めることで、授業力の向上を図る。</p> <p>○ 体育実技研修会（若年教員中心）【7/26、参加者20名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動、器械運動の指導方法やけがの予防法について、実技を通して研修し、指導力向上を図る。 ・講師 東部教育事務所 指導主事 古市 茂 先生
点検・評価	<p style="text-align: center;">AA</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・最初は準備運動から始まったが、その際、児童生徒のけが・事故を防止する安全指導があった。児童生徒自身の服装や爪切りの指導、教員の目配り等のポイントを挙げていただき、留意点の再確認につながった。 ・「できる」「楽しい」体育授業を目指すために、目標・成果・評価の必要性についての講話があった。「できた！」と感じるレベルは一人一人異なることを意識して、目標設定や賞賛の声掛けに注意する必要性を学び、参考になったようである。 ・参加者からは、「安全指導の再確認ができた」「楽しく体づくり運動ができた。授業でも準備運動に取り入れたい」「基礎感覚を養う運動の必要性を感じた」等の感想が寄せられた。改めて、安全で楽しい授業への意欲が高まったようである。 ・講師の古市指導主事から、マット運動等の実技指導に関するDVDをいただき、承諾を得て、市教セよりダビングした物を各小学校に配付した。研修中に視聴しているので、授業に役立ててもらえるものと期待できる。 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・体育実技研修会は、教科指導研修会と隔年で実施している。小学校の若年教員にとっては日常の教科指導のノウハウを学べる貴重な機会となっており、参加者からも好評である。 ・来年度は教科指導に係わる研修会であるが、どの教科を取り上げるか、アンケート調査をもとに参加者のニーズを確認して実施する必要がある。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度は教科指導研修会を実施する（教科は道徳の予定）。

事業・研修会名	1 - (5) 情報教育実技研修会（情報教育研究委員会）
内容・方策	<p>情報教育の一層の充実・改善を図るため、また、教職員の作業効率の向上を目指して、情報教育に必要な知識や効果的な情報機器の活用の仕方等を研修する。</p> <p>（情報教育研究委員 小学校9名、中学校4名）</p> <p>① 情報教育研究委員会（7月13日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報教育実技研修会の内容、役割分担に関する協議 <p>② 情報教育実技研修会（8月4日、鷹施中学校）【参加者17名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PC活用の技術向上を目指し、授業改善や事務効率の向上に役立てる。 ・書画カメラの活用に関する実技研修 講師 (株)エルモ 伊藤洋平 先生 情報教育研究委員
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書画カメラ（実物投影機）の活用について、製造・販売会社から講師を招き、研修を行った。 ・書画カメラの利便性から、全ての学校で利用されており、パソコン等のICT機器の扱いに不慣れな教員も多く参加した。電源を入れての機器の立ち上げからお話しいただいたので、非常に分かりやすい研修であった。 ・参加者は情報教育研究委員の先生にも質問しながら、様々な機能を試していた。 ・参加者からは「各教科でもっと効果的な使い方ができるということが分かった」「電子黒板と同等なことが可能であることが分かった」「お金をかけなくとも、資料提示が劇的に変わると思った」等の感想が寄せられた。 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の感想には、学校に配備されたタブレットをうまく活用することができないという悩みから、タブレット端末の有効な活用法、授業に活用できるアプリの紹介があったらよいという声があった。それらのニーズに応えられるよう研修内容を工夫していく。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、平成29年度も継続する。

事業・研修会名	1－(6) 全国学力・学習状況調査の結果分析とその活用
内容・方策	<p>全国学力・学習状況調査の結果等を生かし、市内小中学校が児童生徒の学力向上や基本的生活習慣の定着を図れるように支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全国学力・学習状況調査の結果分析等を行い、報告書として小中学校に配布する。報告書は小中学校の学力向上への取組に参考としてもらえる内容にする。 ○ 全国学力・学習状況調査の児童・生徒質問紙調査の質問項目をもとに簡易版の調査用紙を作成し、小中学校に配布する。
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査の結果について、児童生徒が学力面での課題を把握するために、個人票を作成するためのソフトを小中学校に送付した。 ・「平成28年度 全国学力・学習状況調査報告書」では、教科に関する調査や児童・生徒質問紙調査の結果について、その概要を報告した。結果の分析では、「設問別正答率の学校間の開き」や「児童・生徒質問紙調査結果の経年比較とクロス集計」等を示し、小中学校が学力向上に向けた取組をする際に参考としてもらえるデータを提供した。 ・全国学力・学習状況調査の児童・生徒質問紙調査の質問項目から20項目を選び、簡易版の調査用紙と集計用のソフトを作成し、小中学校に配布した。今後、小6、中3以外の学年でも実施することで、各学年の課題を把握したり、学校の取組について評価したりする際に効果を発揮するのではないかと考えている。 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の分析方法については、学校の取組に資する着眼点をもつことが大切である。学校がどのようなデータを必要としているか研究する余地がある。 ・今年度、学力向上市町村教育委員会プラン研究委託事業の拠点校（若栗小学校、宇奈月中学校）の取組について、「教育センターだより」に掲載し、各校で共有することができた。優れた取組例は共有することが大切であり、今後も発信の方法を検討し、多くの取組例を共有できるようにしたい。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、平成29年度も継続する。

事業・研修会名	1－(7) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果分析、 体力・運動能力向上研修会
内容・方策	<p>全国や富山県が実施した体力・運動能力調査の結果をもとに、市内の児童生徒の体力・運動能力、運動習慣の状況を把握・分析し、学校での授業改善や体力向上・生活習慣改善の取組の支援をする。</p> <p>① 「平成28年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」等の結果を分析し、本市児童生徒の課題を示す。</p> <p>② 体力・運動能力向上研修会を開催し、今後の取組について協議、提案する。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>①について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力調査の結果を「平成28年度 体力・運動能力、運動習慣に関する調査結果の概要」（報告書）としてまとめた。報告書では、本市児童生徒の実技調査や質問紙調査の結果、学校質問紙調査の結果、各種のクロス集計による分析等を示した。また、各小中学校の「体力・運動能力向上」の視点・方策シートを掲載し、体力向上に向けての参考資料とした。 <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の体育主任を対象に、「体力・運動能力向上研修会」を開催した。主に体力向上に向けた課題の設定の仕方や体育の指導力を向上するための方策について研修した。体力向上に関する各校での取組について情報交換したり、体育の指導力向上にどのような研修が必要か協議したりすることができた。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・体力・運動能力、運動習慣に関する調査結果は、様々な角度から分析することにより、本市児童生徒の課題を明らかにしたり、解決策を考えたりすることができるように思われる。さらに、どのような分析をすればよいかを検討することが必要である。 ・体育主任は若手の教員も多くなってきている。今後、体育の指導をはじめ、体力・運動能力向上に取り組むにあたり、校内でリーダーシップを発揮することができるよう、体育主任としての力量の向上が必要である。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、平成29年度も継続する。

2 黒部国際化教育の充実

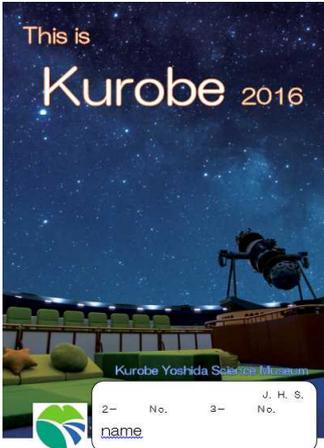
事業・研修会名	2－(1) 黒部国際化教育組織部会
内容・方策	<p>英会話科の実施をはじめとする黒部国際化教育の各事業について、黒部国際化教育組織部会において、事業方針や事業内容等について審議する。また、企画・運営・評価部会、カリキュラム部会、英会話科定例会で検討されたことについて情報共有を図る。</p> <p>○ 年2回開催し、以下のことについて協議する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度の方針や重点事項、取組について ・「英会話科」授業公開月間について ・平成28年度の成果や課題、平成29年度の方針について ・平成30年度以降の英会話科について
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・英会話科の取組（授業公開）や英語サマーキャンプ、姉妹都市交流事業等に関して、建設的な意見が多く出され、それを事業に生かすことができた。しかし、国際化教育の広報活動（特に授業公開）について、ケーブルテレビでの番組制作を検討していたが、予算の関係もあり、なかなか思うように進めることができなかった。 ・平成30年度以降の黒部国際化教育の在り方、特に英会話科について審議し、忌憚のない意見交換がなされた。主として学校としての考えを伺うことができた。 ・組織部会や国際化教育推進協議会で話し合われた内容について、校長研修会で報告した。 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・英会話科をはじめとした黒部国際化教育の各事業において、平成28年度の成果と課題を話し合った組織部会の意見を参考に、次年度に生かしていくことが重要である。 ・平成30・31年度も教育課程特例校の申請を行い、英会話科を継続して行う。小学5・6年生の先行実施等については、次年度中に決定する。 ・新学習指導要領が完全実施される、平成32年度以降の英会話科の在り方については、今後とも慎重に協議を進めることが重要である。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、平成29年度も継続する。

事業・研修会名	2－(2) 企画・運営・評価部会												
内容・方策	<p>充実した英会話科の取組ができるよう、英会話科の重点目標の共通理解を図るとともに、各校の取組状況の情報交換、成果と課題の確認等を行う。(参加者は各校の教頭先生)</p> <p>○ 年4回開催し、以下のことについて伝達、協議する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度の英会話科の全体計画、指導の重点について ・国の英語教育改革実施計画について ・授業公開、指導案等について ・英会話科に関するアンケート、英検3級取得者調査、中教研学力調査英語科聞き取り調査の結果、エンジョイトーキングとスピーキングテストの集計等の提出について ・平成28年度の英会話科の成果と課題 ・平成29年度の指導の重点等について 												
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・黒部国際化教育に関する各種事業や英会話科の全体計画、国の英語教育改革等について、共通理解を図ることができた。 ・「英会話科」授業公開月間において、児童生徒、保護者、教員対象のアンケートを実施することができた。また、アンケートや各種調査の結果、授業公開の様子等を「英会話科授業公開月間のまとめ」として報告し、今年度の取組の成果と課題を分析することができた。 ・中学3年生の英検3級受検率・取得率が、近年になく低い結果となった。 <div data-bbox="1077 1025 1406 1458" style="float: right; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">平成28年度 黒部国際化教育推進事業 英会話科公開授業 学習指導案</p>  <p style="text-align: center; font-size: small;">授業公開期間 平成28年10月27日(木)～11月25日(金) 黒部国際化教育推進協議会</p> </div> <table border="1" data-bbox="496 1503 1361 1675" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26年度</th> <th>H27年度</th> <th>H28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>英検3級受検率</td> <td>40.5%</td> <td>40.3%</td> <td>24.8%</td> </tr> <tr> <td>〃 取得率</td> <td>35.7%</td> <td>34.0%</td> <td>19.8%</td> </tr> </tbody> </table>		H26年度	H27年度	H28年度	英検3級受検率	40.5%	40.3%	24.8%	〃 取得率	35.7%	34.0%	19.8%
	H26年度	H27年度	H28年度										
英検3級受検率	40.5%	40.3%	24.8%										
〃 取得率	35.7%	34.0%	19.8%										
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は授業公開を行ったため、年4回開催した。授業公開を行わない年度は2回開催の予定である。 ・中学3年生の英検3級取得率は35%を目標にしている。今年度は受検率が25%以下であり、生徒が「英検を取得してみよう」と思うような手立てを工夫することが必要である。 												
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、平成29年度も継続する。 												

事業・研修会名	2－(3) 英会話科カリキュラム部会
内容・方策	<p>1・2学期末（8月、12月）に部会を開催する。そこでは、今年度のカリキュラムにおける成果や課題等を集約し、より効果的な指導計画を作成することで、教員の授業力向上と子供たちの英会話力の向上を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成28年度の重点の取組状況や児童生徒の「英会話」に対する実態を把握し、年間指導計画の見直しと作成を行う。 ○ 部員は小中各1名（中学校は英語科教員）とする。12月の部会には、JAT・JETも参加してもらい、年間指導計画の作成に向けて意見を聞く。
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、英会話科では初めて、小学5・6年生でアルファベットの大文字に慣れ親しむカリキュラムを取り入れた。教員・児童からは概ね好評であった。その成果と課題を検証し、1年を通してアルファベットに親しむことができるよう、来年度の計画では、年度の最初に位置付ける。 ・平成30年度からの新学習指導要領先行実施を踏まえて、来年度は大きく年間指導計画の見直しを図らなければならないので、今年度は前年度を踏襲する形で年間指導計画を作成した。小学校低学年は、「できた」という思いを大切にするという視点から、発音の難しい単語を削除し、低学年でも言いやすい単語に絞って学習することとした。カリキュラム部会だけではなく、英会話科定例会等でALTやJAT、JETから多くの意見を聞き、来年度のカリキュラムに反映させることができた。 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度からの第5・6学年の英語教育（新学習指導要領の先行実施の可能性）を念頭に置き、指導体制の在り方の研究、内容の吟味、指導者のさらなる指導力の向上を目指していく必要がある。 ・部会で話し合われた内容をまとめ、学校に伝えていく。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、平成29年度も継続する。

事業・研修会名	2－(4) 英会話科担当者定例会
内容・方策	<p>月1回定例会を開催し、英会話科を担当しているALT、英会話講師、市担当者、センター職員が年間計画に基づいて研修を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の充実のための研修、英語サマーキャンプの企画・運営、年間指導計画の見直し等を中心に行う。 ○ 1月下旬から順次ALT、英会話講師との面接を行い、仕事の状況を確認したり、悩みの相談にのったりする。また、次年度の配置を伝えるとともに、サービスに関すること、英会話科の授業の重点等に関する研修を行う。
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づいて定例会を開催した。英会話科の授業や授業以外の英語活動について課題や改善点等を話し合うことを通して、ALT、英会話講師の研修を進めた。 ・英語サマーキャンプにおいては、ALT、JAT、JETが今年度の方針をよく理解して取り組んだ。事後アンケートにも、指導者・参加者共に充実したキャンプであった様子が記載されていた。今年度で10年目になるが、内容も少しずつ見直してよりよい活動を企画しているおかげで、毎年参加を希望する児童生徒も多い。 ・英会話科授業公開月間に向けて、授業準備のための話合いの時間がとれ、効果的に情報交換をすることができた。 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・英会話科の授業においては、内容や指導方法等を検討することができて、成果があったと感じられる。ただ、英会話科授業公開月間のアンケートからは、普段子供たちを英会話に慣れ親しませるための環境づくりの必要性が感じられた。来年度は、環境整備の視点で、情報や意見を交換できたらよい。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、平成29年度も継続する。

事業・研修会名	2－(5) 英会話科の推進に係わる研修会
内容・方策	<p>黒部の英語教育の最終目標「ふるさと黒部を豊かに英語で語れる生徒の育成」の達成に向けて、英会話科の授業の充実を目指し、研修を行う。</p> <p>① 第1回英会話科指導者研修会（5月11日）【参加者11名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒部市外からの着任者及び初任者に黒部の英語教育（事業全体、英会話科）についての研修を行う。 <p>② 第2・3回英会話科指導者研修会 （小学校教員悉皆、8月3日、9日）【参加者 計136名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英会話科授業の充実を目指し、教育事務所指導主事による講話を行う。 ・講師 東部教育事務所 浦田栄信 指導主事 <p>③ 英会話科実技研修会（7月28日）【参加者2名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者が授業でクラスルームイングリッシュを用いながら、効果的に授業を行うための研修にする。 ・講師 小学校英語専科講師 杉原栄子 先生、ALT ヘンリー先生
点検・評価	<p style="text-align: center;">AA</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>①について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度の重点を説明し、研究主事とALTが模擬授業を行い、英会話科で目指している具体の姿を児童の立場で経験し、理解できるよう配慮した。また、簡単なアクティビティを通して、積極的にクラスルームイングリッシュを使用することを体験した。 <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒部市の英会話科の重点や授業の構想の仕方、今後の国の動向を確認するよい機会となった。また今年度は、初めてアルファベットに関する慣れ親しみの授業を行うので、指導法の共通理解をするために、ALT・JAT・教育センター研究主事による模擬授業を提示した。最後に授業公開に向けて学年部会を開き、アイデアを出し合った。 <p>③について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生方の実態に、より即した活動を取り入れ、すぐに授業に生かせるように工夫した。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・実技研修会の申込みが大変少なかった。より多くの先生方に参加してもらえるよう、工夫が必要である。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度は、魚津地区センター協議会の協業事業である「外国語活動研修会」が開かれる。そのため、小学校教員悉皆の「英会話科指導者研修会」は授業公開がある年度（隔年）に行うこととし、できるだけセンター協の研修に参加してもらうこととする。 ・第1回の指導者研修会と実技研修会を合同で実施し、内容を充実させて、参加者の増加を図る。

事業・研修会名	2－(6) 英会話科授業の充実及び環境整備
内容・方策	<p>英会話科の取組の充実を目的として、各校の取組を広く紹介したり、学習効果の上がる教材を作成したりするなど、英会話科の充実と環境整備にあたる。</p> <p>① 小中学校全クラスで授業を公開し、保護者や地域の方々や関係機関の方々に授業を参観していただく機会を設ける。</p> <p>② ふるさと黒部のことを英語で豊かに語ることでできる生徒を育成するための“<i>This is Kurobe 2016</i>”やその他の教材を作成し、配布する。</p> <p>③ 黒部国際化教育に対する理解を深めることを目的に、保護者用リーフレットを作成し、市内小中学生の保護者に配布する。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">AA</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>①、③について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は英会話科授業公開があったので、児童生徒や保護者アンケートの結果を生かして、黒部国際化教育のリーフレットを刷新し、市内小中学生の全保護者に配布した。 ・英会話科の授業公開の成果と課題についてまとめたものを各校に配布した。全授業公開の様子が写真と文章でまとめられており、各校の実践の参考になればと考えている。 <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も“<i>This is Kurobe</i>”を作成して中学2年生に配布し、スピーキングテストにも活用した。黒部市の名所、名産等を紹介する英文を掲載し、作成した生徒の学校、学級、小グループ名も記載し、生徒の学習意欲を高めるように配慮している。この冊子は、3年生の修学旅行時や黒部市のコマーシャルを作る学習活動等で生かすことにしている。 ・今年度小学校高学年でアルファベットに親しむカリキュラムを取り入れた。それに伴って、大文字・小文字のピクチャーカードを作成し、全小学校に配付した。 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生の2学期では、“<i>This is Kurobe</i>”に使用できる表現が限られてくる。なるべくいろいろな表現が使えるよう、作成後の活用の時期も考え、3学期に作成することとする。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、平成29年度も継続する。

事業・研修会名	2－(7) 帰国児童生徒教育研究会
内容・方策	<p>帰国児童生徒及び外国人児童生徒が、日本の学校生活、生活様式に適応できるように支援する。(黒部市とYKKからの補助金と各校からの会費により研究活動を進める)</p> <p>① 保護者会やサマースクールの開催、会報Accessの発行を行う。 ② 国際理解教育の充実を図るため、県外研修報告、全体研修会を行う。 ③ 各校および関係機関・保護者との連携を密にし、帰国児童生徒への援助・相談を充実させる。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>①の活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回保護者会(中央小学校、6/25) <ul style="list-style-type: none"> ・生活や進路について情報交換を行った。 ・保護者2名(帰国1名、外国籍1名) ・第2回保護者会(中央小学校、11/19) <ul style="list-style-type: none"> ・親子で洋風を作り、多目的ホールで飛ばして楽しんだ。 ・保護者4名、児童5名、幼児1名 ・サマースクール(7月31日) <ul style="list-style-type: none"> ・吉田科学館でプラネタリウムを鑑賞、川遊び用の舟を作り、尾山大谷川で川遊びをした。その後、布施川ダムを見学し、ダムのはたらきについて学んだ。 ・保護者5名、児童7名、幼児2名 ・冊子「出国・帰国児童生徒のためのハンドブック(第6版)」をデータ化し、教育センターのホームページにアップした。 <p>②の研修会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県外研修報告 桜井小学校 西尾歩美 教諭 ・全体研修会 「黒部市における国際交流の現状」 黒部市企画政策課 橋本彰人、田中沙樹 氏 ・国際理解教育研修会 「本県の国際交流と多文化共生」 富山県観光・地域振興局国際課 廣瀬祐子 氏 <p>③の援助・相談について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央小学校から相談を受け、生活支援が必要な外国人児童の保護者にSSWを紹介した。現在もSSWが定期的に面談をしている。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・サマースクールの工作が難しすぎたとの意見があったので、学年相応の内容となるよう配慮する。 ・外国人児童生徒と保護者の対応についての研修会を平成29年度に予定している。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、平成29年度も継続する。



事業・研修会名	2－(8) 帰国児童生徒・外国人児童生徒教育
内容・方策	<p>帰国・外国人児童生徒がスムーズに学校生活を送ることができるように、学校・市教委と連携して指導にあたる。</p> <p>○ 帰国児童生徒に対しては一人一人に応じた学習指導を、外国人児童生徒に対しては日本語指導を中心に行う。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・中央小学校では、数名の帰国児童・外国人児童について、週1回の付添指導をしている。帰国・外国人児童が学習内容や先生の指示等を理解していないと思われる場合に、分かりやすい言葉で説明したり、級友と仲良く関わられるように声を掛けたりしている。 ・宇奈月小学校の2名の児童について、昨年度に引き続き、個別に読み書きを中心とした基礎的な指導をした。しかし、3学期からはクラス内で学習することになったので、個別指導は行わなくなった。 ・帰国・外国人児童と受け入れる児童双方の国際理解のきっかけとなるよう、日本の行事や外国の文化についての掲示をするなど、中央小学校なかよし教室の環境整備をはかっている。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・学級担任と連携をはかり、個々の児童に応じた指導を継続する。 ・外国人保護者が生活に不安を抱えている場合、児童生徒にも影響が及ぶことがあるので、必要に応じて学校やSSW等と連携を図り適切に対応していく。 ・帰国・外国人児童生徒が編入してきた場合、効果的な対応ができるように、これまでの反省と効果のあった対応を累積し整理しておく必要がある。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善をふまえ、平成29年度も継続していく。

3 生徒指導・教育相談の充実

事業・研修会名	3-(1) いじめ問題等研修会
内容・方策	<p>いじめ問題について、「黒部市いじめ防止基本方針」に即し、組織的な対応ができるよう研修を深める。</p> <p>① いじめ問題等研修会の実施（4月19日、2月2日） 小中学校教頭を対象に、いじめの予防を中心にいじめへの対応について研修を深める。</p> <p>② いじめ認知件数等に関わる調査を月1回行う。</p> <p>③ 各校の「いじめ0を目指す視点・方策・評価シート」をまとめ、校長研修会で共有する。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>①の研修会について</p> <p>○第1回 4月19日（火）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止基本方針の校内での周知、学校内での組織的対応、未然防止のための研修等 <p>○第2回 2月2日（木）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度のいじめ問題への取組の振り返り（いじめの捉え方）についての研修等 <p style="padding-left: 2em;">講話 「いじめ防止対策基本推進法に基づいて対応しよう」</p> <p style="padding-left: 2em;">講師 東部教育事務所 籠浦智彦 主任生活指導主事</p> <p>②の調査、③のシートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ認知件数と主な内容や「いじめ0を目指す視点・方策・評価シート」は校長研修会で報告した。市内小中学校のいじめの実態把握や、いじめ0を目指す方策を立てる際の参考となったと思われる。
課題・改善	<p>①について</p> <p>主任生活指導主事の講話は、管理職としてのいじめ問題への心構えや対処法等、改めて考えさせられる内容であった。しかし、演習を行うことができなかったため、余裕をもった研修時間を確保する必要がある。</p> <p>③について</p> <p>「いじめ0を目指す視点・方策・評価シート」を活用した各校の取組は定着してきているが、形骸化しないようにしていく必要がある。</p>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、平成29年度も継続する。



事業・研修会名	3－(2) 生徒指導主事等研修会
内容・方策	<p>生徒指導主事の資質・能力の向上を目的とし、日常的に起こり得る課題への対応について、年4回研修会を開催する。小中連携の意識を高め、児童生徒を9年間で育てるという視点から、演習は中学校区ごとのグループで行う。</p> <p>第1回 5月18日 「『危機管理』からみるいじめ問題」 ～危機管理体制の構築～ 講師 黒部市教育委員会 金山 努 学校教育班長</p> <p>第2回 7月1日 「Q-Uを生かした個の支援と集団づくり」 講師 県総合教育センター 本村雅宏 主任研究主事</p> <p>第3回 11月17日 冬季休業中の生徒指導、情報交換</p> <p>第4回 2月8日 「ネット社会を生きる子供たちの現状と大人の役目」 講師 東部教育事務所 籠浦智彦 主任生活指導主事</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・研修後のアンケートを活用して先生方の要望を把握し、ニーズに応じた研修内容を設定することができた。 ・生徒指導主事として、ケース会議や打合せ等でリーダーシップを発揮できるように、全ての研修に演習を取り入れ、学校ですぐに実施可能な研修とした。 ・毎回、中学校区ごとに情報交換の時間を設け、現在の学校の様子や気になる児童生徒の状況を共通理解できるようにした。 ・自ら進んで考える研修を目指して、課題提示→演習→講話と研修の進め方を決め、講話を聞くだけの受け身の研修にならないよう配慮した。 ・第3回の研修会は、生徒指導主事の多忙感を緩和できるように、会場を市庁舎にし、情報交換中心の研修会とした。 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は生徒指導主事の負担を考慮し、第3回研修会の内容を見直し、短時間で行った。また、会場も市の中心部にある市庁舎で行い、参加者には好評であった。 ・生徒指導主事の資質・能力向上を目的としている研修会であるが、生徒指導主事以外も参加できるように配慮するなど、多くの教員が学ぶことができる手立てが必要である。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、平成29年度も継続する。

事業・研修会名	3 - (3) 教育相談の充実と体制づくり																																
内容・方策	<p>適応指導教室「ほっとスペース」と教育センターにおいて、来所、電話等による教員相談を実施し、保護者・教員の悩みや課題の解決を支援する。</p> <p>① 教育相談のリーフレットを年4回配布し、保護者に案内をしている。</p> <p>② 保護者からの教育相談を受ける。相談内容によっては学校に連絡したり、学校と協議したりして、保護者や子供の支援にあたる。</p> <p>③ 市教委・市教セによる学校訪問、通常訪問、支援型訪問で学校訪問をした際に、懇談会等で教員の相談等に乗る。また、必要に応じて各学校に出向き、相談に乗ったり、要望に応えたりする。</p>																																
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>・相談件数と主な内容（平成29年2月末現在）</p> <table border="1" data-bbox="464 983 1393 1211"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">保護者</th> <th rowspan="2">学校</th> <th rowspan="2">合計</th> <th colspan="5">内 訳</th> </tr> <tr> <th>不登校</th> <th>人間関係</th> <th>子育て</th> <th>進路</th> <th>他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>適応指導教室</td> <td>114</td> <td>52</td> <td>166</td> <td>68</td> <td>28</td> <td>19</td> <td>33</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>教育センター</td> <td>17</td> <td>16</td> <td>33</td> <td>8</td> <td>2</td> <td>10</td> <td>4</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table> <p>※来所による相談、電話やメールによる相談を含む。内訳は複数回答。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談内容については、市教委や学校と情報を共有し、より適切な対応を考えた。相談内容によっては、適応指導教室やSSWにも連絡し、具体的な支援にあたった。 ・学期の始めや終わりに教育相談の案内を配布した。配布後には教育相談が多くなる傾向がみられることから、一定の効果があったと思われる。 ・相談者の意向を尊重しつつ、必要と思われるものは当該校に連絡し、共通理解を図った。 		保護者	学校	合計	内 訳					不登校	人間関係	子育て	進路	他	適応指導教室	114	52	166	68	28	19	33	18	教育センター	17	16	33	8	2	10	4	11
	保護者					学校	合計	内 訳																									
		不登校	人間関係	子育て	進路			他																									
適応指導教室	114	52	166	68	28	19	33	18																									
教育センター	17	16	33	8	2	10	4	11																									
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な支援が必要な場合の、適応指導教室・SSWとの連携や、学校、市教委、県教委、関係機関との情報共有等について、さらに意識して取り組むことが重要である。 																																
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、平成29年度も継続する。 																																

事業・研修会名	3－(4) 不登校児童生徒に関わる取組、適応指導教室の充実
内容・方策	<p>小中学校の不登校児童生徒を適応指導教室「ほっとスペース」においてあずかり、学校とも連携を図りながら様々な指導を行い、児童生徒の学校生活への復帰を支援する。</p> <p>① 通所している児童生徒の実態に即し、成長発達に役立つ活動を実施する。</p> <p>② 相談活動により保護者の精神の安定を図る。</p> <p>③ 関係小・中学校及び市教委と連携しながら児童生徒の支援を行う。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度通所した生徒 6名（中学校男子2名、女子4名） ※4月は3名通所で開始。7・10・12月に1名ずつ増え、現在は6名が通所。内1名は、学校へも通学している。 ・毎月、欠席の多い児童生徒の数を調査し、その結果を市教委や校長研修会で報告した。 ・通所している児童生徒一人一人の状況に合わせ、個別の計画を立てて指導にあたった。市教セから適応指導教室に適宜訪問し、児童生徒の観察や面談をするとともに、児童生徒への指導や保護者への対応について、適応指導教室指導員、教育相談員と打合せをした。また、学校には、月ごとに児童生徒の活動報告を届けた。必要に応じて、電話で連絡したり、関係教員を交えてのケース会議を行ったりして情報の共有を図った。 ・学校から不登校の生徒や保護者に働きかけをしてもらったことで、2学期以降の通所生徒が増加した。 ・月に1回、保護者と指導員、保護者同士が懇談する場（おしゃべりカフェ）を設けている。保護者の心の支えとなっていると考えられる。2月末現在の参加者は、延べ41名。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・市内には、学校にも適応指導教室にも来ることができない児童生徒がまだ多数いる現状であり、今後も学校や保護者への働きかけに努めていくことが大切である。 ・教育相談をしてくる保護者には、かなり精神的に不安定な状態になっているケースが多くなっており、保護者を支えるという視点も大切である。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、平成29年度も継続する。

事業・研修会名	3 - (5) スクールソーシャル・ワーカー (SSW) 事業の活用推進
内容・方策	<p>不登校や児童虐待等の生徒指導上の課題に対応するため、SSWを派遣し、問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働きかけや関係機関との連携・調整等を図る。</p> <p>① 毎週木曜日と金曜日の午後に、SSWが学校の要請に応じて、家庭訪問をしたり電話連絡したりして、問題を抱えた児童生徒やその保護者の相談に乗る。</p> <p>② 関係機関等とのネットワークを活用し、なかなか学校では発見しにくい家庭内の問題や子供の問題等を発見し、学校に連絡したり、課題解決の対応について協議したりする。</p> <p>③ SSWが小中学校・幼稚園等を訪問し、SSWについての説明や活用促進の呼びかけを行う。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>○今年度からSSWが2名になり、半日ずつ学校勤務をしている。 <SSW 1> 毎週木曜日の午前は高志野中、午後は桜井小勤務。 <SSW 2> 毎週金曜日の午後に生地小勤務。</p> <p>○活動記録 (2月末現在、2名合計)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2月末までの勤務 404.5時間 (県320.5h、市84h) ・ 働きかけをした対象者 児童生徒15名、保護者5名 ・ 家庭訪問 (延べ回数) 15回 ・ ケース会議 (延べ回数) 5回 <p>・ 定期的な学校勤務は3時間程度であり、必要に応じて様々な学校に赴き、ケース会議等に参加したり家庭訪問したりした。</p> <p>・ 市の「いじめ問題対策会議」の一員として会議に参加し、児童生徒や家庭に対する支援について協議した。</p> <p>・ 市教セ主催の生徒指導主事等研修会にも積極的に参加し、各校との情報交換に努めた。</p> <p>・ 小中学校や幼稚園・こども園・保育所への訪問、就学時健診での保護者への広報活動等を通して、学校や保護者にSSWの役割について広く知らせることができた。</p>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ より多くの学校において、SSWを効果的に活用してもらえよう、学校の要望を調査し、配置の仕方を検討する。 ・ 今後も市内小中学校や幼稚園、こども園、保育所に出向いて、小学校入学前の段階で情報収集したり、支援できることを提案したりしていくことが大切である。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題・改善を踏まえ、平成29年度も継続する。

事業・研修会名	3－(6) 幼・保・こ・小・中学校の連携事業
内容・方策	<p>子供たちが健全に成長できるよう、幼稚園・保育所・こども園と小学校、小学校と中学校での情報共有や連携を深めるための方策を支援する。</p> <p>① 学校（園）訪問において、幼稚園、こども園、小・中学校の連携の視点をもって指導助言にあたる。</p> <p>② 小中連携に役立つ資料の提供をする。</p> <p>③ 中学校区ごとに生徒指導に関する共通した方針を立てて実践していくことができるように、生徒指導主事等研修会での情報交換の在り方を工夫する。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼・保・小地区別合同研修会に参加し、幼・保と小学校との連携について、実態把握に努めた。 ・ 学校（園）訪問においては、幼稚園、こども園には小学校への進学を、小学校には中学校への進学を念頭に置いた助言を行った。 ・ 生徒指導主事等研修会や体力・運動能力向上研修会等の研修会において、演習をしたり情報交換をしたりする際に、中学校区ごとの小グループで行った。小中の各学校の実情もふまえた話合いが行われていた。 ・ S S Wと一緒に幼稚園、こども園、保育所を訪問し、支援が必要な幼児や家庭の状況等についての情報収集や相談活動を行った。また、その情報を小学校の訪問活動の際に伝えたりした。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市教セの研修会で、小中の教員が互いの教育活動について理解したり情報共有したりする活動は、有効であった。 ・ 具体的な連携の取組を、教育センターだより等で紹介することが大切であるが、十分に紹介できなかった。 ・ 幼・保・こ・小・中学校の連携に関して、それぞれのニーズを把握し、それに基づいて有効な対応策を検討していくことが重要である。 ・ 幼・保と小学校との連携について、市教セが中心となって情報交換の場を設けることも重要である。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題・改善を踏まえ、平成29年度も継続する。

4 学校教育を支援する調査・研究の推進

事業・研修会名	4-(1) 社会科研究委員会
内容・方策	<p>小学3年生・4年生の社会科で学ぶ身近な地域や市(県)の社会的事象について理解を深め、地域社会に対する誇りと愛情を育てるための学習資料を作成する。(社会科研究委員 小学校9名)</p> <p>○ 「わたしたちの黒部市(上)(下)」(小3・4年社会科学習資料)について、地図の修正、関係団体等への聞き取りや行政資料の変更に合わせて見直しと改訂の作業を行う。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>○社会科研究委員会(年間2回、7/27、8/24)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしたちの黒部市(下)と(上)の改訂を行った。 ・地図のページで主に変更したことは国道8号線の呼称。2016年4月1日に、従来の8号線は、「県道150号魚津入善線」に指定変更され、バイパスだけが国道8号線となった。子供たちには、分かりやすさを考慮して、「国道8号線」を「旧国道8号線」に、「国道8号線バイパス」を「新国道8号線」に変更した。 ・冬季休業中は調査日がほとんどないので、第1回に(下)と(上)両方の改訂箇所を同時に分担・検討し、第2回で両方の改訂原稿確認をした。その時点でデータ未確認の(上)の原稿は冬季休業あけまでに送ってもらい、委員長・副委員長に確認してもらう方式で進めた。開催回数が減り、夏季休業中に(下)と(上)の改訂作業をほぼ終わることができて委員にとってもよかった。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模な変更がない時期は、全員が集まる会合は夏季休業中の2回の方式がよいと思われる。 ・地図資料を交換する方法を、第1回会合において具体的に説明したが、委員にとっては難しいようだった。次年度も説明はするが、委員ができない部分は教育センター指導員が訂正作業を行うようにする。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、平成29年度も継続する。



事業・研修会名	4－(2) 理科研究委員会
内容・方策	<p>小学校における理科の学習活動を充実させ、児童の科学的な見方や考え方の育成に資するため、観察、実験に活用できる指導案、ワークシート、掲示資料などを作成する。</p> <p>(理科研究委員 小学校6名、中学校2名)</p> <p>○ 小学校教員が授業で活用できる、実験の手引きや児童の興味・関心を高める教材等を作成する。今年度は「4年生の理科で使える画像データ集」を作成する。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>○理科研究委員会（年間2回、6/8、8/22）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回は活動計画を立案し、4年生で使える画像データ集の作成を確認。単元等の選定、想定できる画像の内容、担当者を決定した。 ・第2回は各自の原案について全体で検討し、説明ページの様式と内容の統一、画像の修正点を確認した。 ・「4年生理科で使える画像データ集」を作成・配布した。ラミネート処理した画像（理科室などに常時置く）と画像データ集冊子（授業での使用のねらい・使用例・説明などを記載）とデータ入りCD一式である。各校に配布し、学校間共有サーバーにもアップした。 ・各単元でラミネート画像はA3で1～2枚とした。また、黒板などに貼ることができる方位磁石と磁針、電気回路を考える際に使う黒板用の電池・モーター等のセットと小グループの話し合いに使える小さなセットも作成し、各校に配布した。 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は一人1単元とした（理科室の使い方＝ガラス器具の扱い、電池使用の留意点も含む）ので、責任分担は明確だった。 ・従来の1枚ものの画像ばかりでなく、マグネットで黒板などに貼ることができる工夫をしたセットもある。作成の手間はかかったが、考える場面や話し合いの場面で指導者に大いに活用してもらえるものとする。 ・過去3年間、「〇年生で使える画像データ集」を6・5・4年生と作成してきたが、3年生は自然観察など直接体験から学ぶ単元が多いので、29年度は、画像データ集ではなく、実験に関する研修や実験に使えるワークシートの作成をする方がよいのではないかとの意見が出た。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、平成29年度も継続する。

事業・研修会名	4 - (3) 吉田科学館学習（プラネタリウム学習）												
内容・方策	<p>授業で観察することができない夜空・月・星・太陽系惑星・恒星など天体の見かけの動きを、プラネタリウムで見ることをきっかけに観察し、宇宙や天体への見方や考え方を養い、認識を深める。</p> <p>○ 吉田科学館、教育委員会（スクールバス運行）と連絡調整をし、小学4年生・中学3年生のプラネタリウム学習が円滑に行われるよう計画、反省などを行う。</p>												
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>○参加校 6月～7月 小学校4年生 9校（376人） 12月～1月 中学校3年生 4校（404人）</p> <p>○事前研修会参加人数 各校1名、センター1名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉田科学館のプラネタリウムがリニューアル・オープンしたのに伴い、これまでの既製番組投映からマニュアル投映となった。マニュアル投映番組原案を作成した吉田科学館の担当者が、事前研修会に参加した教員の意見を吸い上げ、改善していった。従来は事前研修会を行っていなかった中学校についても、今年実施し、4校担当者からの意見を、投映当日に生かすことができた。これまで、内容が多すぎるし言葉が難解で分かりづらいとの声が多かった中学生も理解しやすくなったようである。 ・効果（従来の学習番組とマニュアル投映を比較したアンケートより） <table border="1" data-bbox="491 1263 1401 1435"> <thead> <tr> <th></th> <th>小学校</th> <th>中学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とても理解しやすくなった。</td> <td>5校</td> <td>4校</td> </tr> <tr> <td>ある程度理解しやすくなった。</td> <td>4校</td> <td>0校</td> </tr> <tr> <td>理解しやすくなったと感じない。</td> <td>0校</td> <td>0校</td> </tr> </tbody> </table> <p><その理由></p> <ul style="list-style-type: none"> （小学校）・子供の反応に合わせた説明の仕方がよかった。 <ul style="list-style-type: none"> ・星や星座の動きが以前より分かりやすくなった。 （中学校）・立体的で宇宙空間を感覚的にとらえやすくなった。 <ul style="list-style-type: none"> ・難しい用語が少なくなり、分かりやすくなった。 		小学校	中学校	とても理解しやすくなった。	5校	4校	ある程度理解しやすくなった。	4校	0校	理解しやすくなったと感じない。	0校	0校
	小学校	中学校											
とても理解しやすくなった。	5校	4校											
ある程度理解しやすくなった。	4校	0校											
理解しやすくなったと感じない。	0校	0校											
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校は、マニュアル投映後は、立体画像（黒部の水）視聴、館内見学を行う学校がなくなり、4次元デジタル視聴が圧倒的に多くなった。帰校して復習という選択も2校あった。 ・難しいと言われていた中学校の番組内容が精選され、生徒が興味・関心を高めることができる内容になった。今後も学校の要望に近づけられる学習を計画していきたい。 												
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、平成29年度も継続する。 												

5 迅速な教育サービスの提供

事業・研修会名	5－(1) 情報提供
内容・方策	<p>児童生徒、教職員が、安心・安全によりよい学校生活を送ることができるよう、必要な情報を迅速に提供し、情報の共有化を図る。</p> <p>① 掲示板を定期的に検索し、不適切な書き込みがあった場合は、該当学校・市教委等に連絡したり、削除要請をしたりする。</p> <p>② 不審者情報や熊情報が出た場合、市教委と相談のうえ、迅速に学校に連絡する。長期休業中の危険・問題行動については、連絡ルートに従って小中学校に連絡する。</p> <p>③ 報告書や資料の作成については、市教委や校長と連携しながら取り組む。</p> <p>④ 教育センターだよりを発行し、市内の学校の取組や教育センターの事業等を紹介する。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不審者・熊情報については、市教委と見直した連絡体制に基づいて対応することができた。 <p>③について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告書や資料の作成、教育センターからの提案については、市教委や校長会等に相談しながら進めた。市教委や校長会からは、様々な示唆を与えていただき、それを報告書や提案に盛り込むことができた。 <p>④について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育センターだよりを通して、教育センターでの研修をはじめとして、各校での特色ある取組や学力向上拠点校での取組、黒部国際化教育の動き、市内の教員の教育への思い等、幅広く紹介することができた。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者・熊情報については、迅速性が要求されるので、市教委と相談し、学校から来る情報については教育センターが、農林整備課からの情報については市教委が発信することとした。また、地域ぐるみで子供を守るという視点から、今年度から学校とともに、各地区の公民館へもFAXを送信した。各地区でも防犯意識をもって対応していただいている。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、平成29年度も継続する。

事業・研修会名	5－(2) 視聴覚教材・書籍等の整備や貸し出し、掲示物等の印刷
内容・方策	<p>書籍、教材等を貸し出したり、印刷物を作成したりすることを 通して、学校行事の運営や教育指導、教員研修の質的向上を支援 する。</p> <p>① 視聴覚教材、書籍、諸検査を購入、整備し、広報活動に努め る。</p> <p>② ポスタープリンターによる印刷物の作成を迅速に行う。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の教材の貸し出しは、以下の通りである。 ※3月3日現在の数値。()内は前年との比較。 <li style="padding-left: 20px;">◇視聴覚教材 42件(+3) <li style="padding-left: 20px;">◇プロジェクター等の教具 3件(-5) <li style="padding-left: 20px;">◇WISCIV等の検査類 12件(-6) <li style="padding-left: 20px;">◇教科書 76冊(-105) <li style="padding-left: 20px;">◇書籍 36冊(+12) <ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材(ビデオやDVD)については、視聴覚ライブラリ ー一覧をHPに掲載したほか、1・2学期に1回ずつ、学校へ の巡回貸し出しを行ったり、市教セ研修会の際に受講者へ紹介 したりしてニーズの掘り起こしに努めた。また、必要とする視 聴覚教材を各校に調査し、それをもとに購入した。 ・教員のニーズが高いと思われる書籍を積極的に購入した。研修 室に書籍を並べ、研修会で紹介したことにより、関心をもって 借りていく教員が増加した。 ・教育センターの全職員がポ スタープリンターの操作を 習得し、ポスタープリン ターを使った教材等の印刷依 頼に対してなるべく早く対 応した。 <div data-bbox="911 1323 1426 1621" style="text-align: right;">  </div>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な広報活動によって、視聴覚教材や書籍の貸出件数は、 前年より増加した。ただ、視聴覚教材の巡回について、小学校 では巡回期間が1週間と短いため、目を通せない職員もいる。 巡回期間を長くする必要がある。 ・学校が必要とする教材、資料等を学校訪問等の際に探り、ニー ズに応じた物、教育課題に対応できる物を整備していくことが 重要である。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、平成29年度も継続する。